

# 大幸グループ 2014 CSR 報告書

人と社会の夢に、進化と調和を



だいちくん みらいちゃん

## 大幸工業株式会社

本社 〒559-0025 大阪市住之江区平林南2丁目8番37号  
TEL 06-6686-0001 FAX 06-6686-0002  
東京支店 〒105-0003 東京都港区西新橋1丁目18番6号  
クロスオフィス内幸町12階  
TEL 03-5501-1370 FAX 03-5501-1371

## 大阪ベントナイト事業協同組合

本社 〒559-0025 大阪市住之江区平林南2丁目8番37号  
TEL 06-6686-0003 FAX 06-6686-0004

### ■携帯電話からのアクセス

e-mail:sea-mew@daiko-group.com

右のバーコードを対応端末で読みとっていただければ、  
直接サイトにアクセスできます。

<http://www.daiko-group.com/>



【お問い合わせ先】 大幸グループ CSR事務局

〒559-0025  
大阪市住之江区平林南2丁目8番37号  
TEL 06-6686-0001 FAX 06-6686-0002



この印刷物は環境に配慮した  
「ベジタブルインキ」で  
印刷されています。

弊社は暴力団等反社会的勢力との取引は一切行いません  
(ホームページ掲載)

2015.01.1000



## 大幸グループは、 「産業廃棄物の徹底した再生利用」で さらに地球にやさしい企業グループを目指します。



### 創業以来、環境保全に一筋に邁進

1963(昭和38)年の創業以来、大幸グループは産業廃棄物の収集・運搬と中間処理、建設汚泥のリサイクル事業などを通じて、地球環境の保全と汚染予防に取り組んできました。

創業当時、日本は高度経済成長の真っただ中でした。東京オリンピックや日本万国博覧会(大阪万博)など国際的大規模工事や、ビル建設ラッシュによる膨大な建設汚泥の処理が大きな社会問題となり、1970(昭和45)年に産業廃棄物処理の適正化を目的に「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」が制定されました。当グループの中核を担う大幸工業はその年に設立し、法律に基づいた適正な建設汚泥の収集と運搬を主業務としてきました。

その後、環境問題が一層深刻化するなかで、大幸工業は業界でもいち早く産業廃棄物の中間処理に乗り出しました。その取り組みは行政にも注目され、当社は大阪市からの要

請を受けて、使命感を持って本格的な中間処理事業を行うことを決意しました。同業・関連の企業に働きかけ、協同してこの環境事業を進めるため、大阪ベントナイト事業協同組合を立ち上げるに至ったのです。大阪市から譲り受けた用地に、当時としては画期的な設備を備えた中間処理場を建設しました。それが現在の南港処理センターになります。

大幸グループがリサイクル事業に取り組み始めたのは、1990年代の初頭です。「循環型社会形成推進基本法」が制定される10年前のことです。循環型社会という言葉はもちろん、リサイクルという言葉も一般的ではなかった時代です。「近い将来、リサイクルが求められる時代が必ず来る、その基盤となる施設を造ろう」と、1993(平成5)年に建設汚泥処理施設「泉第2プラント」、その3年後には建設汚泥のリサイクル施設である「泉第3プラント」を建設しました。そして、建設汚泥をリサイクル処理し再生した画期的リサイクル製品「ポリナイト」を発売しました。このポリナイトにより、大幸グループは「第1回

ウエステック大賞」「第7回地球環境大賞」など、環境に貢献した企業を顕彰する数々の賞を受賞するという栄誉を得ました。

以後、流動化処理土「ポリソイル」や盛り土用途に使われる「ポリアース」など、時代のニーズに合ったリサイクル製品を誕生させ、その優れた品質の製品群と環境にやさしいリサイクルシステムは効率性と安全性が注目を集め、幅広く建設現場で活用されています。

大幸グループは、事業を通して地球環境を守り、持続可能な循環型社会を実現していくことを目指してきました。それは、事業活動そのものがCSR活動であると言えます。

### 国にも提案し、循環型社会の実現をめざす

創業から半世紀を経た今、産業廃棄物業界では最終処分場の不足が顕著となり、日本の経済発展の大きな足かせとなっています。例えば、2020年(平成32年)に開催される東京オリンピックのメイン競技場となる国立競技場の建て替えや、将来の日本の大動脈となるリニア中央新幹線においても、その工事において発生する大量のコンクリートガラや建設汚泥の処理が大きな課題となっています。建設汚泥は、工事が多い大都市圏で大量に発生しますが、そのすべてを都市圏で処理できる状況ではなくなってきました。

一方、東日本大震災を受けて「国土強靭化事業」が全国的に進められています。南海トラフ地震など将来想定される

大災害に備えた津波対策として、土地のかさ上げ用に大量の盛り土が必要になっています。当社の「ポリアース」は、建設汚泥をコーン指数400kn/m<sup>2</sup>(ダンプカーが走れる強度)以上の硬い再生土にリサイクルしたもので、そのまま埋め立てや盛り土に使える認可を受けており、津波対策の盛り土として注目され、需要が高まっています。当社では2014(平成26)年に泉プラントの設備を増強し、「ポリアース」の供給体制を整備しました。リニューアルした泉プラントは、産業廃棄物の処理施設ではなく、再生土の生産プランとして位置付けています。

私は公益社団法人 全国産業廃棄物連合会の理事・建設廃棄物部会長として、国土交通省などに都道府県をまたぐ大きなリサイクルの流れを創るべきと提案しています。大都市圏で大量に発生する建設汚泥を、リサイクルして津波対策の工事などに活用していく。そのような仕組みを作ることで、持続可能な循環型社会を構築でき、日本の発展にもつながると考えています。

大幸グループは、2011(平成23)年に大阪初の個別指定事業で、阪神高速道路大和川線シールド工事の発生土を中性改質し、遊休化していた水面貯木場の埋立造成工事に活用するという「資源循環型プロジェクト」に着手し、成功させています。その実績を活かし、再生可能な廃棄物はすべて再生して活用し、業界のトップランナーとして循環型社会の構築に貢献してきます。

こうした事業を展開してくためには、地域社会はもちろん、広く日本社会に信頼され、好感を抱いていただける存在でなければなりません。大幸グループは、地域に密着して地域の発展に貢献することをベースに、日本の発展と地球環境の保全に貢献し、より良い未来を築いていくことで社会になくてはならない存在となることを目指します。

どうか一層のご指導、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

大幸工業株式会社 代表取締役  
大阪ベントナイト事業協同組合 代表理事



浜野 廣美

# 土を変える、環境を創造し地域社会と融合する大幸グループのビジョン。

大幸グループの事業拠点、プラントは、大阪湾岸に位置する大阪市住之江区の南港地区、堺市の臨海堺港地区に展開しています。事業運営の要である大幸工業株式会社・本社と、車輌センター、建設現場、運搬ルート、各プラントが、互いに緊密に連携し合い、環境型社会の形成に尽力しています。建設汚泥の100%リサイクル、流動化処理土「ポリソイル」開発のほか、ダンプに替わる海上輸送によって処理土を運搬しCO<sub>2</sub>排出量を削減、大阪広域臨海環境整備センター（通称：フェニックス）埋立処分場の覆土として再利用するなど、循環型社会の構築に貢献しています。

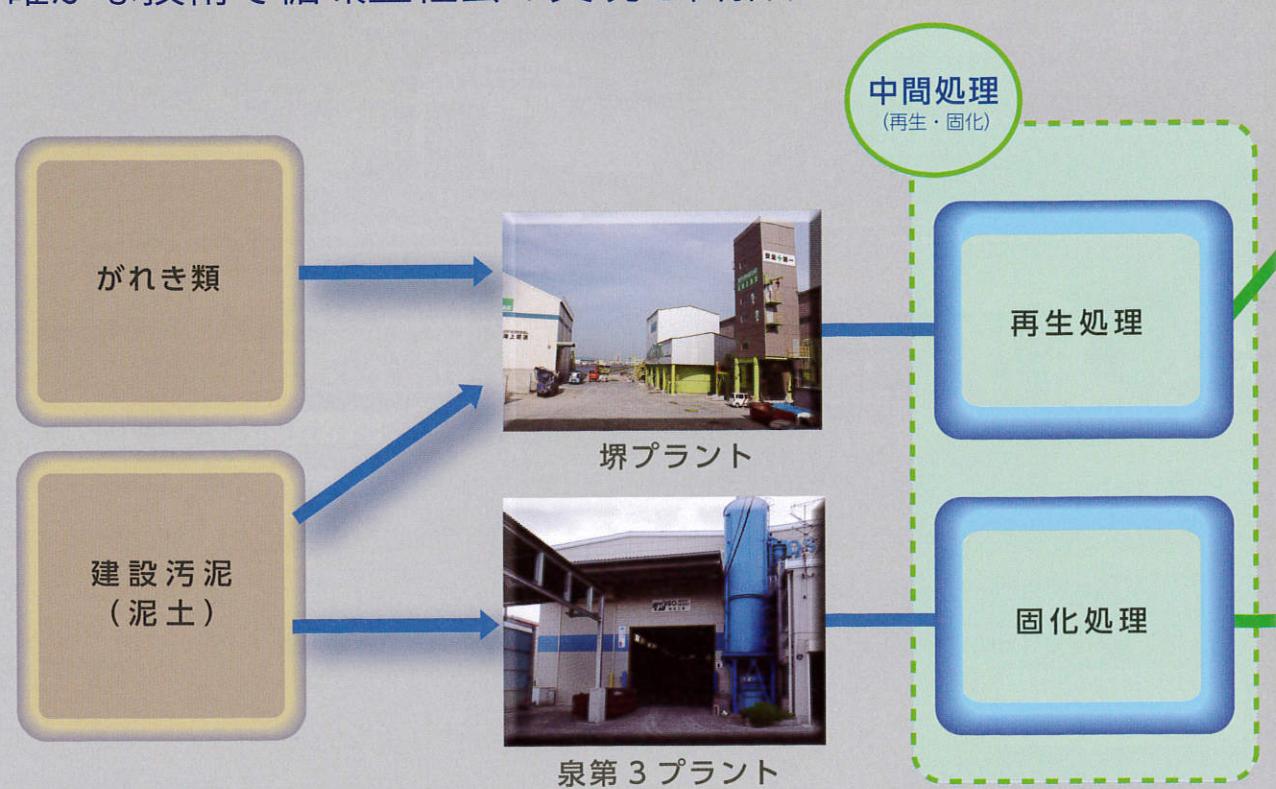
さらに、地域・行政・多様な企業とのパートナーシップに重きを置き、エコリサイクル花壇の設置や道路の美化清掃など地域・社会活動にも力を注いでいます。





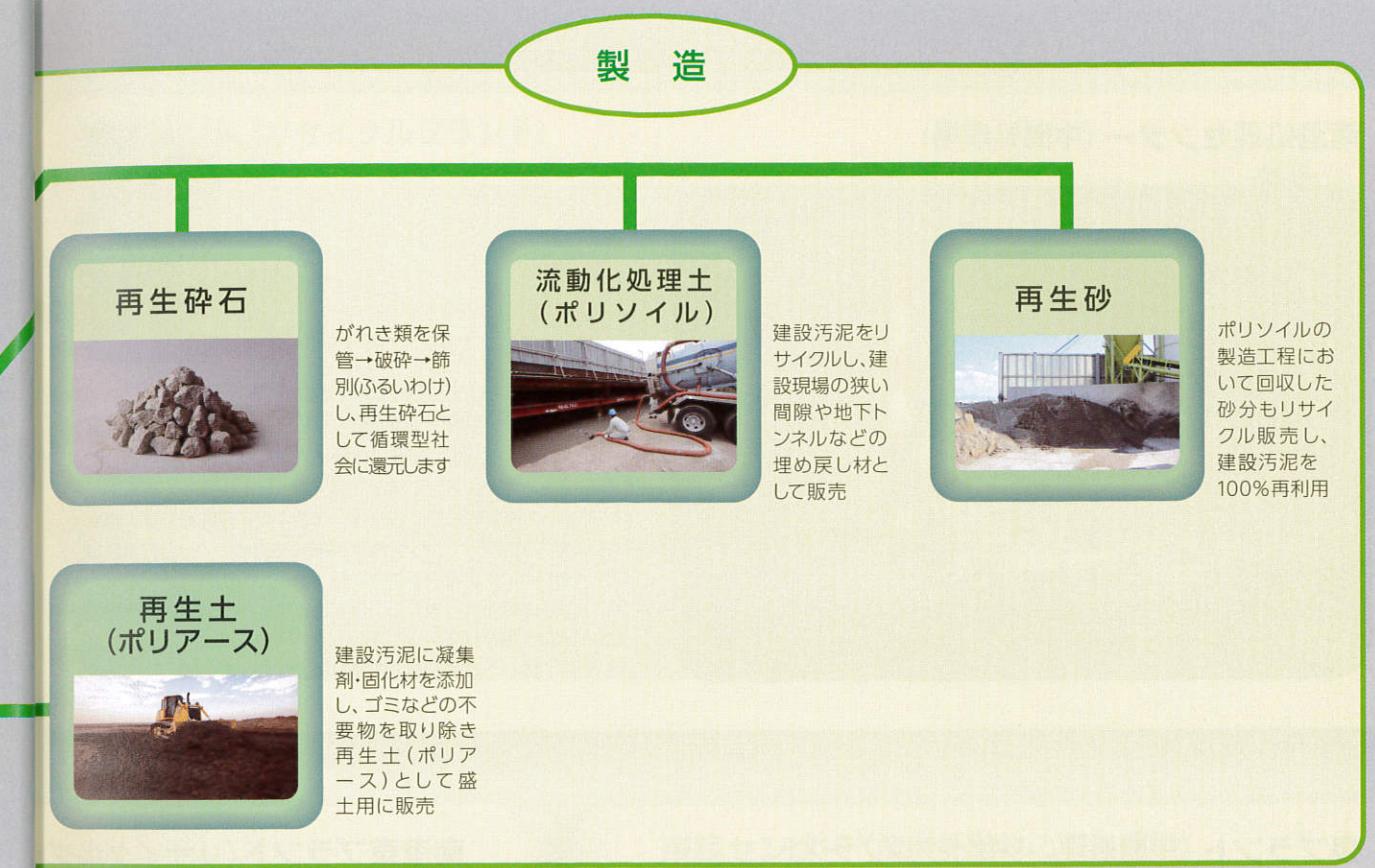
## 社会と環境の進化を求めて、新たな可能性を拓く

確かな技術で循環型社会の実現を目指す

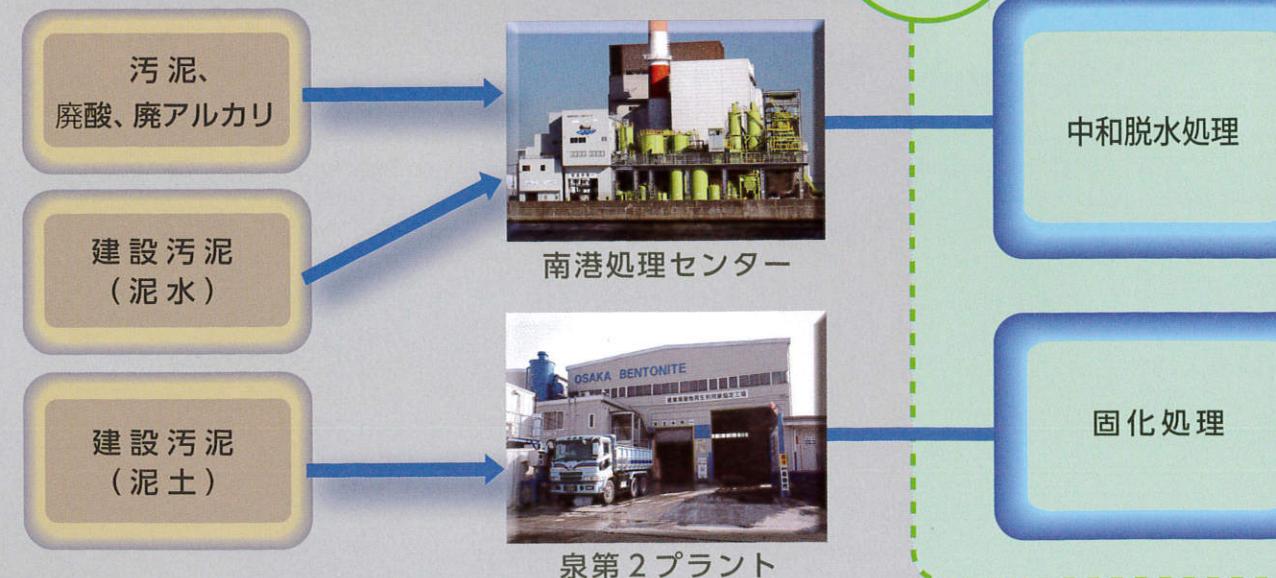


大幸グループでは、環境負荷の少ない廃棄物処理法を追求するだけでなく、循環型社会の形成を目指し、リサイクル技術の開発及びリサイクルシステムの構築に取り組んでいます。建設・解体現場等で回収した汚泥やがれき類等は、それぞれ堺・泉プラント、

南港処理センターに運んで処理を行い、リサイクルによる流動化処理土「ポリソイル」をはじめとする高品質な製品群として販売するほか、埋め立て処分場の覆土として活用、また、厳しい基準のもとで埋め立て等に向けて適正処理を行います。



産業廃棄物の適正処理で環境保護に貢献



下水道放流  
放流水は厳しい基準で適正に処理した後、下水道へ放流します。

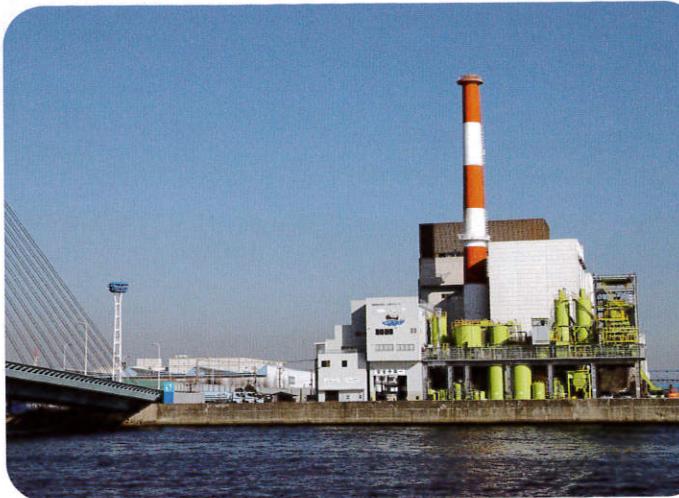
埋立処分場

# 人と社会に安全と安心を、グループ総力の結集

大幸グループの事業拠点・プラントは、海上輸送に直結した湾岸、埋立地に直接再生土を打ち込める立地等、効率化と品質を追及した陣容になっています。また、各プラントをつなぐ輸送路と通信・運用の制御を徹底し、グループの総合力が発揮される体制を整備しています。

## 大幸グループ処理施設

### 南港処理センター（中間処理場）



工場長・三澤 実千仁



自社の検査機関を備え、品質管理を徹底しています。  
お客様に常に良いものを。発展途上のプラントです。

1977年に竣工し約30年継続稼動している当施設は、建設汚泥、企業系廃棄物などの汚泥、廃酸、廃アルカリを中和し、脱水ケーキに処理して最終的に埋立処分場へ送る中間処理施設です。当センターは1993年5月(財)全国産業廃棄物連合会より地方優良事業所、1995年6月に優良事業所表彰を受け、2002年にISO9001、ISO14001の認証を取得しています。また、南港処理センターのリニューアル工事が2014年3月に完了しました。これにより、より安全・安心で効率の良い中間処理場となりました。

### 堺プラント（リサイクルプラント）



工場長・平安座 唯博



循環型社会実現と地球温暖化防止にも貢献できる設備と技術。環境にやさしい会社づくりに全力を挙げたい。

堺プラントは、がれき類の破碎・筛別及び建設汚泥の分級を行う中間処理施設であるとともに、建設汚泥処理土の積替保管施設を持ち、陸送と海上輸送の中継機能も果たしています。また、再資源化施設において流動化処理土「ボリソイル」の製造・販売と、砂分の回収・販売を行っています。2002年にはISO9001・14001の認証を取得。また、2011年スタートの「優良産廃処理業者」認定を同年7月に取得しています。

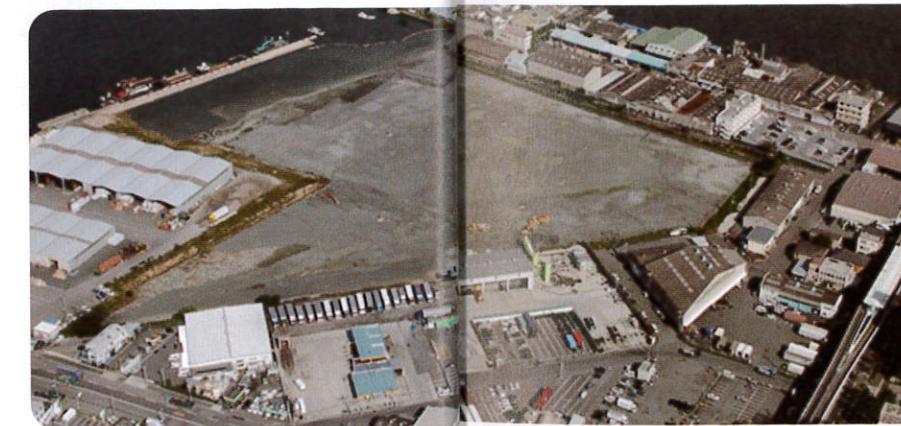
### 泉プラント（中間処理、リサイクルプラント）



処理の効率化、合理化を追求し、事業としての価値を生みたい。共に学び、発展していきたいと思います。

泉第二プラントでは、建設汚泥を固化処理して、堺プラントを通じて海上輸送を行い、大阪湾広域臨海環境整備センター（通称フェニックス）の埋立処分場へ海上輸送しています。また、泉第三プラントは、国内・国外からも注目された再生石（ポリナイト）の優れた技術を受け継ぎ、再生土（ボリアース）として新たなリサイクル施設（製造施設）として期待されています。

### 南港東プラント（リサイクルプラント）



貯木場再生プロジェクトに直結し、新しい街を創造して次代へ。意義ある事業に経験・情熱を生かしたい。

南港東プラントは、現在、阪神高速大和川線シールド工事の発生土再活用事業として、大阪南港貯木場の埋立に適応した良土に改質し、ダイレクトに供給する基地です。現場からの搬入には経路をGPS・ETCマニフェストシステムで厳密に管理。高効率、安全、的確な運用を行っています。建設現場・埋立現場に直結した施設であることから、リサイクルの品質の極限を追及するプラントとして注目を集めています。

### 車両センター（産業廃棄物の収集運搬）



経験豊かなスタッフでありながら、固定観念を捨て、自ら仕事を改革し、新分野を切り拓けるのが強みです。

経験豊かなスタッフでありながら、固定観念を捨て、自ら仕事を改善し、新分野を切り拓けるのが強みです。効率の良い運行を目指して、常に改善と新手法の導入を進めてきました。環境に配慮した燃費基準達成車の導入や、超強力吸引車をはじめ、トレーラ、タンクローリー、水密式ベッセル、ダンプに至る多彩な車種82台の産業廃棄物収集運搬登録車輌を保有。全車両がNOx・PM適合車です。また、運用管理にはデジタルタコメーター、ドライブレコーダー、GPSモバイルを組み入れ、安全・確実・サービス向上の収集運搬を追求しています。



地域貢献

## 地域に根ざし、社会の明日に果たす役割

地球環境にやさしい都市開発を支え、暮らしを守るリサイクルを事業の根幹に据える大幸グループ。その事業のスピリットは CSR 活動の一環として取り組む産業廃棄物健全化技術と、それを推進するための法整備の提案、そして関連企業、行政、地域社会が一体となった地道で着実な社会貢献へと展開されています。

### 住之江区制 40 周年記念事業に協賛

大幸グループの本社がある大阪市住之江区は、2014 年（平成 26）年に区制 40 周年を迎えました。地域密着を基本方針にしている大幸グループでは、40 周年記念事業に全面的に協賛しました。記念事業のメインイベント「光のワンダーランド 2014」では、大阪府咲洲庁舎の非常階段で行われる垂直マラソンとウォーキングが「大幸

工業株式会社スペシャルチャレンジ THE RISE 256」として実施されたほか、ATC（アジア太平洋トレードセンター）に特別出展された「鳥取砂丘 砂の美術館 PR ブース」に大幸グループの紹介コーナーが設けられ、マスコットキャラクター「だいちくん」「みらいちゃん」の砂像が展示されました。



大幸工業（株）スペシャルチャレンジ THE RISE 256 の様子

### 第 7 回寄せ植え教室

大幸工業（株）大阪ベントナイト事業（協）

エコリサイクル土の可能性、大幸グループの優れた環境改善技術とそれに賭ける情熱を多くの方々に理解していただき、環境への思いを共有したいと、エコリサイクル土を使った寄せ植え教室を 2011 年（平成 23 年）3 月からスタート。毎年の恒例イベントとなっています。



第 7 回参加者集合写真

### 盆踊り大会

大幸工業（株）大阪ベントナイト事業（協）

大幸工業株式会社の本社がある住之江区の平林南町会主催で毎年催される夏の盆踊り大会には、大幸グループの社員とおよび家族が積極的に参加し、大会を盛り上げています。また、盆踊りに欠かせない夜店の屋台の運営にも協力。かき氷や焼き鳥、焼きそばなどのスタッフとして活躍し、地域の皆さんと一緒に楽しい夕べを過ごしています。



### 第 11 KTK 道路清掃美化キャンペーン

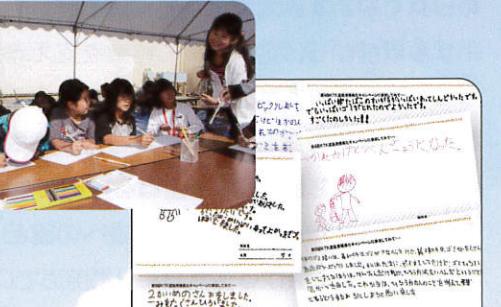
大幸工業（株）大阪ベントナイト事業（協）



2004 年（第 1 回）参加者集合写真



清掃の様子



子供感想文



2014 年（第 11 回）参加者集合写真

### インターンシップ

大幸工業（株）大阪ベントナイト事業（協）

次代の社会を担う若い世代、学生に、単なる就業体験としての実地研修でなく、私たちの取り組む事業一豊から安全なまちづくりと地球環境改善への思いを実地で理解してもらえる機会提供として、またその体験を通じて思いを共有する学生・生徒が、将来的には私たちと強い連帯感とパートナーシップで結ばれることを期待して、積極的にインターンシップを導入してきました。



本社での実習

### 職場体験学習

大幸工業（株）大阪ベントナイト事業（協）

社会的・職業的自立の基盤となる力を身につけることを目的に行われている中学校の職業体験学習に、大幸グループでは大阪市立新北島中学校から 10 名の生徒を受け入れました。生徒たちは大幸工業本社でオリエンテーションを受けたあと、車輛センターで専門車両の学習や、実際にホースを持って清掃体験など行いました。午後からは粘土を使った泥だんご作りも体験。最初は緊張していた生徒たちも、実際の作業や体験学習になると目を輝かせ、積極的に取り組んでいました。



泥を使って泥団子作りの様子



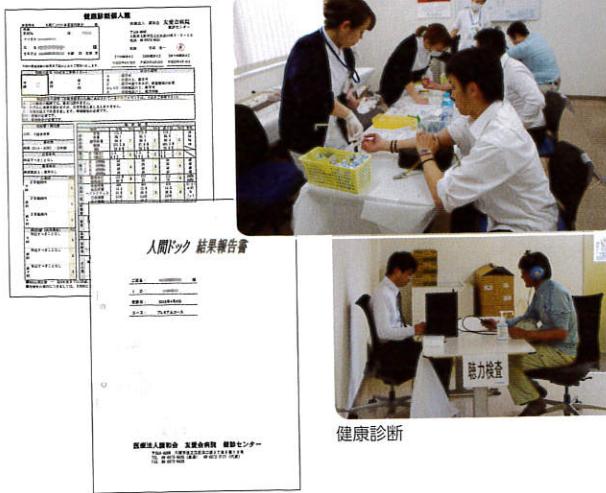
# 人を育てる、人と育つ。活力あふれる人材育成方針

## ■定年後の再雇用・嘱託就業

企業を支えてきた人材、その能力と経験は私たちの宝です。行政の指導方針としても平成25年4月より「改正高齢者雇用安定法」が施行され、年金支給開始年齢の引き上げに伴った雇用環境の見直しが企業に求められています。大幸グループはこうした世情が一般化する以前から、定年後にも事業を支える大きな柱として再雇用制度を考え、社員それぞれの希望も考慮しながら再契約の道を作っていました。基本的には定年後の単年契約を65歳まで重ねる方式を採用し、能力、役割に応じた活躍を期待し、後進への鏡としてのマンパワーを職場に広げる基盤づくりに努めています。

## ■社員を守る人間ドック

働き盛りの世代のみならず、近年では若い世代でもさまざまな疾病が現代生活の弊害として指摘されています。企業を支える人材の健康トラブルは大きな損失となりうるもので、これに対してはできる限りの備えが必要です。大幸グループでは、従業員、組合員の潜在疾患の早期発見、予防、適切な治療へのルートとして、人間ドックの利用推進に力を注ぎました。しっかりと検診を受けようすると、ともすれば高額な負担がかかる人間ドックですが、その負担の大部分を企業として補助し、気軽に利用できる体制を作っています。このシステムは特に社員、そしてご家族に人気が高く、喜んでいただいている福利厚生の一つとなっています。



## ■育児・介護休暇制度

大幸グループは社員のライフサイクル、ライフステージにもっとも適し、仕事と家庭生活の両立を容易にする育児・介護休暇制度をその必要に応じて男女の別なく提供し、社員が安心して就業できる環境と、仕事へのモチベーションの維持を図ってきました。特に配慮していることは、この制度をこだわりなく取得できる社内の理解と支援にあります。新生児の育児、お年寄りの介護、病にある家族への看護等、そのための所定時間外労働の免除、深夜業の制限、時間短縮その他について個別に相談し、正当な事由に基づくものに対しての企業としてのサポート体制を築いています。



## ■ドライバー教育

安全確実な運行業務を目指し、交通安全教育に関するDVDを用いた安全講習会のほか、廃棄物の漏洩に対する緊急事態対応訓練を定期的に実施し、危険予知・予防対策に努めています。また、地球環境の保全に向け、温暖化の原因となるCO<sub>2</sub>、大気汚染の原因となるNO<sub>x</sub>やPMの削減につながるエコドライブ講習会を定期開催しています。中部から九州に至る広域での収集運搬を安全かつ円滑に行うため、冬季の積雪対策としてタイヤチェーンの装着訓練にも取り組んでいます。



## ■プラント業務研修

大幸グループ各プラント間の技術・情報交換、連携、相互理解を目的に、数カ月にわたり、他のプラントで業務研修を行う制度を設けています。日常の業務の枠を越えた横断的な体験は、個々のスタッフの意識向上、視野拡大にもつながり、大きな成果を収めています。



## ■防災訓練

内閣府からの南海トラフ地震・津波による被害想定の公表を受け、2013年から津波避難を軸とした防災訓練に取り組んでいます。不測の事態に動搖することなく適切・迅速に行動できるよう、今後も実践的な訓練を毎年繰り返し、防災体制の維持・向上を目指していきます。



火災訓練

## ■社内及びグループコミュニケーション・研修

大幸グループは、傘下の関連企業だけでなく、環境事業に参加・賛同する幅広い業種の企業と連携し、情報交換と相互扶助を図っています。こうした例はきわめて珍しいことで、利害を超えて業界全体のイメージアップと水準の底上げを実現する原動力になっています。大幸グループが提唱し立ち上げたKTK(環境対策協議会)はその成果の典型であり、異業種を横断的に網羅した勉強会や相互交流会が明日の環境事業の可能性を展望するエネルギーとなっています。また、大幸グループ独自の取り組みとしても、社内のセクション、グループごとの交流、会合、そして教育活動により、一人ひとりが目的意識と経営感覚を持つて業務に携わる姿勢が培われています。



## ■大幸グループ通信

大幸グループと、KTKに参加する企業の相互交流と情報交換を目的とした、情報誌を定期刊行して、大幸グループの企業活動と、地域の情報、行政の指導や指針の紹介、そして関係する企業の最新情報についてもお知らせし、私たちの関わる環境事業の内容と目指すべきトピックについての広報的な役割を持たせています。



# 大幸グループの変わらぬ環境理念

## 年度方針・環境方針

2014年(平成26年)度の大幸工業株式会社・大阪ベントナイト事業協同組合の環境方針が示され、地球環境の保全・循環型社会構築を目指して、事業の主軸を据え組織強化を図り、顧客サービスをさらに充実することが改めて確認されました。

### ・社長方針 「誠心」

まごころをもって事に当る、誠意(まごころ)しめせ営業活動、誠意(まごころ)あふれる職場づくり  
全社員一丸となって改善に取り組み、新たな事業・システムを創出する。

### ・環境方針

私たちは、地球の環境保全、持続可能な社会の実現が人類共通の最重要課題であることを認識し、廃棄物の適性処分および、リサイクル技術及びリサイクルシステムの研究開発に取り組み、循環型社会の形成に貢献します。

### ・ISOスローガン「考え方一人ひとりができるエコ」

## 安全・安定操業の確保

- 教育・訓練を充実し、個々のレベルアップを図る  
社外研修会等へ積極的に参加しレベルアップを図る。
- 事故・トラブルの原因を徹底究明し再発を防止する  
事故事例検討会を実施し、類似事故の再発を防止する。

## 組織の強化と業績改善の推進

- 法令順守と情報公開
  - 環境に関する法律、協定及び地域との協議ルールの順守を徹底する。
  - ホームページ等での情報公開を推進し、企業イメージのアップを図る。
  - 電子マニフェスト化の推進等により、法令順守意識の高揚を図る。
- 業績改善の推進
  - 業績改善提案制度を推進し、全員参加で業績改善に取り組む。
  - ISO活動を継続し、業務の標準化と文書管理の簡素化を推進する。
  - 新規リサイクル事業の実現と効率的な操業を推進する。

## 「地球を大切に」を合言葉に、循環型社会の構築を推進する。

- 車輛・重機の燃料効率の向上ー削減目標：前年比3%CUT  
エコドライブの実践ー急発進・急加速防止・アイドリングストップ  
「もったいない運動」の推進ー紙使用削減・電力使用削減
- 地域との共存共栄の推進
  - 道路美化運動等に積極的に参加し、地域貢献に努める。
  - 本社周辺に設けたエコリサイクル花壇の維持管理に努め、地域の環境保全を図る。

## 循環型社会の構築に寄与する製品の開発・改良及び販売

- 流動化処理土「ポリソイル」をはじめとする資源循環型製品の改良、拡販に努めると同時に、新製品の開発を推進し、循環型社会の形成を図る。

## 顧客サービスの充実

### 顧客ニーズに対応した処理システムの開発

3R、コスト削減等の顧客ニーズに即応したリサイクルシステムの開発を推進する。

## 環境マネジメント・認証取得

地球環境の明日を考え、循環型社会の実現を目指す大幸グループは、公的な審査基準による環境及び品質の優良認証を得ると共に、自治体から事業内容と製品品質についての表彰を受けています。また、社内でも独自の環境目標を組み、厳格な品質管理体制と共に環境マネジメントに力を注いでいます。

## ISO取得状況

大幸グループは、総括的な企業風土、社員個人の社会的貢献意欲を含めたあらゆる側面において、「地球・産業・暮らしの調和」を目指しています。こうした指針により、業界に先駆けて ISO9001、ISO14001 の認証を取得し、環境マネジメントの社内体制を整備。リデュース・リユース・リサイクルの徹底を図るとともに、地球環境保全に役立つ技術と製品の開発に努めています。

## 内部環境監査

ISO9001、ISO14001 取得を早期に果たした大幸グループ各事業所では、環境マネジメントシステムのPDCAサイクルに基づき、内部監査を実施。環境実績の組織的・継続的な改善システム、実績向上の推移、法規制順守などに関する審査を実施しています。

## 第三者意見

### 時を経ても変わらぬ環境宣言に今後も期待します。

大幸グループ 2014CSR 報告書は、絵を効果的に使うなどグループのビジョンが理解しやすいように書かれています。大幸グループを統括浜野廣美氏の「時を経ても変わらぬ環境宣言」はグループのビジョンを明確に示し、環境の変化に対してぶれない企業姿勢が強く感じられます。

地域貢献では、2003年から開始された『KTK 道路清掃美化キャンペーン』や『寄せ植え教室』や『インナーシップ』の受け入れなど、地域に根ざし、社会の明日に果たす役割を十分果たしておられます。

特に今年からは、1,176段を駆け上がるタイムレース日本一「THE RISE256」に協賛されたことは、大幸グループの特性を生かした社会活動であり大変興味深く思います。

人材育成と社内環境整備で、特に定期的に発行されるグループ通信の可視化は、15号の発刊をおこなって

## 環境教育

各プラントにおける緊急時の対応訓練、工場法規制研修等、それぞれのサイトの特性と業務内容に合わせて多様な環境教育を展開しています。また、サイト内にとどまらず、外部で開かれている研修会への参加等、環境教育の拡大を積極的に推し進めています。

## 外部環境監査

内部環境監査に加え、環境マネジメントシステムの有効性を確認するため、認証機関のオリオン・レジストラー・ジャパンによる監査を受けています。例年、審査結果をもとに指摘事項の改善を実施し、環境マネジメントシステムの有効かつ適正な運用によって認証登録を更新しています。



京都大学大学院  
地球環境学堂 教授  
勝見 武

# 環境負荷に対する活動の目標と実績

地球環境の将来を考え、その基盤となる事業を推進する企業として、事業推進で生じるさまざまな環境負荷に対しては、全社、あるいは事業所、部署ごとの課題を抽出し、年度ごとの取り組みを進めています。

## 2013年目標とその成果

部門	目的	目標値	具体的な実施方法	評価
南港処理センター	電力使用量削減	前年同月比3%削減	不使用機器の停止	☆☆☆
	用水使用量削減	前年同月比4%削減	不使用機器の停止	☆☆
	重機燃料使用量削減	前年同月比3%削減	アイドリングストップ	☆☆☆
	顧客満足度の向上	顧客クレームゼロ	作業手順書の厳守	☆☆☆
	法規制の順守	排出基準クリア	pH監視強化	☆☆☆
	法規制の順守	受入基準クリア	定期分析による監視	☆☆☆
泉プラント	電力使用量削減	前年同月比4%削減	不使用機器の停止	☆☆
	重機燃料使用量削減	前年同月比3%削減	アイドリングストップ	☆☆☆
	顧客満足度の向上	顧客クレームゼロ	作業手順書の厳守	☆☆☆
	法規制の順守	搬入基準クリア	品質検査の実施	☆☆☆
堺プラント	電力使用量削減	前年同月比3%削減	不使用機器の停止	☆☆☆
	重機燃料使用量削減	前年同月比3%削減	アイドリングストップ	☆☆☆
	顧客満足度の向上	顧客クレームゼロ	作業手順書の厳守	☆☆☆
南港東プラント	電力使用量削減	冷房 27°C 暖房 21°C	室内温度の適正管理	☆☆
	顧客満足度の向上	顧客クレームゼロ	作業手順書の厳守	☆☆☆
	安全安定操業の確保	無事故無災害	作業指示書による順守事項の徹底	☆☆☆
本社	電力使用量削減	前年同月比2%削減	冷暖房温度設定管理	☆☆☆
	省資源	前年同月比4%削減	コピー用紙使用量の削減	☆☆
運輸部	電力使用量の削減	前年同月比3%削減	冷暖房温度設定管理	☆☆☆
	顧客満足度の向上	顧客クレームゼロ	作業手順書の厳守	☆☆☆
	顧客満足度の向上	着時間遅延ゼロ	現着時間報告	☆☆☆
	安全安定操業の確保	無事故無災害	作業指示書による順守事項の徹底	☆☆☆
	重機燃料使用量削減	前年同月比2%削減	アイドリングストップ	☆☆☆

☆目標未達成 ☆☆目標ほぼ達成 ☆☆☆目標達成

## 環境データ

### 泉プラント

中間処理場排出汚泥の化学測定結果

項目	単位	産業廃棄物法基準	最終処分場受入基準	測定値		
				最大値	最低値	頻度
カドミウム	mg/l	0.3	0.1	0.02	<0.01	1回/月
鉛	mg/l	0.3	0.3	0.1	<0.01	1回/月
6価クロム	mg/l	1.5	0.5	0.3	<0.05	1回/月
砒素	mg/l	0.3	0.3	0.03	<0.01	1回/月
セレン	mg/l	0.3	1	<0.01	<0.01	1回/月
熱灼減量	%	-	15	11.7	3.6	1回/月

### 南港処理センター

項目	単位	産業廃棄物法基準	最終処分場受入基準	測定値		
				最大値	最低値	頻度
カドミウム	mg/l	0.3	0.1	<0.01	<0.01	1回/月
鉛	mg/l	0.3	0.3	<0.01	<0.01	1回/月
6価クロム	mg/l	1.5	0.5	<0.05	<0.05	1回/月
砒素	mg/l	0.3	0.3	<0.01	<0.01	1回/月
セレン	mg/l	0.3	1	0.03	<0.01	1回/月
熱灼減量	%	-	15	13.6	1.8	1回/月

## リサイクル活動の実績

### 使用済み切手の回収

大幸工業株式会社はリサイクル募金推進連絡会による、ペットボトルとボトルキャップのリサイクル活動に参加しています。この活動は環境保全、資源の再利用、地域福祉への貢献にとどまらず、世界で医療の行き届かない子供たちにワクチンを贈る資金作りにもなっています。

### 平成26年度リサイクル募金の活動実績

大幸工業(株)	ペットボトル	キャップ
26年11月6日	10kg	10kg
// 7月28日	7kg	12kg
// 4月3日	15kg	10kg

大阪ベントナイト事業(協)	ペットボトル	キャップ
26年11月6日	10kg	10kg
// 7月28日	7kg	12kg
// 4月3日	15kg	10kg



リサイクルペットボトル

リサイクルキャップ



# 明日への希望を育む企業として

## 労働安全衛生への取り組み

大幸グループの安全衛生への取り組みは、朝の朝礼と、報告・連絡・相談・確認の徹底、そして的確なマニュアルを基にした柔軟な現場対応、特に自己責任の認識を徹底させることに主眼を置いています。マニュアルがたとえ完成されたものであっても、それに全てを依存することではなく、環境と状況に対応する、体で判断するということが危機管理には必要不可欠な要素であるからです。特に弊社の場合、プラント、各部署によって多様な業務の事情、状況があります。それぞれのプラントだけでも扱い品、処理薬その他で対応すべき課題は違います。

具体的には各プラントの処理業務に応じたそれぞれに求められる最適での的確な、そして即時的な危機管理体制を目指し、作業着・靴・手袋・マスク等の完全支給による着用といった基本的な作業姿勢、熱中症対策としての水分・塩分補給等の身構えをはじめ、仕事に応じた管理体制をそれが目的意識を持って創造的にプラスしていることです。



## リスクアセスメント

業務には絶えずさまざまな危険要素が付きまとっています。その危険度に応じた評価を判定し、危険要素に対応する対策を優先順位で意識確認しています。営業活動の段階でも、危険処理の契約時に危険物の存在と状況を説明、確認し、受け入れ場所、ドライバー等の条件に基づいた処理要領、危険度に応じた対応や事故の場合での各責任者の対処マニュアルについてはその情報を熟知した現場が主体的に作成することになっています。

## 健全な経営を目指したコンプライアンスと教育

コンプライアンスは一般に法令順守と解釈されていますが、法の規定だけに囚われることにより厳密な規制のみを掛けられると企業としての発展性は損なわれかねないでしょう。法の精神は守るべきとして、単純な社内制度化ではなく、企業、組織が何をビジョンに機能しているのかを社内全体が理解し認識して、正当な、そして未来につながる企業へと育てていかなければなりません。

時として企業活動を損なう反社会勢力に対する対応には、専従の担当者を配置して万全の対処の態勢を取っています。また、新聞等の事件事例をもとに具体例から衆知徹底する形で、社員への教育・啓蒙活動を頻繁に実施し認識の徹底を図っています。

特に車両運行では、ドライバーとしての責任と自覚を徹底して、弊社の名前を刻んだ車両を運行しているということの重要性、状況に応じた適切な対応を説明しています。



## 情報セキュリティの強化

情報通信の進化によって、情報管理の重要性が高まっています。情報漏えいに関して企業としても自己防衛の的確な形を作っていくことが必要となっています。個人情報保護法や法令による規制はあるものの、やはり社員全員が自覚と認識をもって大切な情報を保護しなければなりません。弊社は情報の管理をブロック単位で行い、その責任体系を明確にするとともに、同時に必要な情報の共有という問題に取り組んでいます。

## 大幸グループ事業概要

### 大幸工業株式会社

本社  
〒559-0025 大阪市住之江区平林南2-8-37  
TEL 06-6686-0001  
FAX 06-6686-0002

東京支店  
〒105-0003 東京都港区西新橋1-18-6  
クロスオフィス内幸町12階  
TEL 03-5501-1370

建設汚泥の収集運搬 廃酸・廃アルカリの収集運搬  
浚渫工事の施工及び請負 流動化処理土の販売  
一般貨物自動車運送事業 特定旅客自動車運送事業  
造園工事業 土木、建築工事の施工及び請負  
各種清掃業 造園工事業

### 大阪ベントナイト事業協同組合

〒559-0025 大阪市住之江区平林南2-8-37  
TEL 06-6686-0003  
FAX 06-6686-0004

汚泥、廃酸、廃アルカリの中間処理、流動化処理  
組合員の取扱う汚泥の共同処理  
組合事業の知識普及をはかるための教育・情報提供

### 堺大幸工業有限会社

〒590-0063 大阪府堺市堺区中安井町3-4-10  
TEL 072-238-3059  
建設汚泥の収集運搬  
土木、建築工事の施工及び請負

### 大幸工業泉佐野

〒598-0001 大阪府泉佐野市上瓦屋661番地1  
第2リヒビル302  
TEL 072-429-9147  
FAX 072-429-9146  
建設汚泥の収集運搬 廃酸・廃アルカリの収集運搬  
浚渫工事の施工及び請負 一般貨物自動車運送事業  
ビルメンテナンス業

### 有限会社大幸リース

〒559-0025 大阪市住之江区平林南2-8-37  
TEL 06-6686-0005  
機械のリース  
運搬車両のリース

### 北部大幸工業有限会社

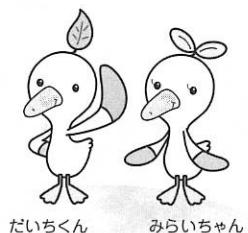
〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4-5-13  
TEL 06-6226-0882  
建設汚泥の収集運搬  
土木、建築工事の施工及び請負



# 大幸グループ2014CSR 報告書

アンケートへのご意見、ご感想を  
お聞かせください

大幸グループ2014CSR  
報告書をご覧いただき、  
ありがとうございました。  
皆様からご意見・ご感想を  
お聞かせいただき、  
弊社の企業活動および今後の報告書づくりに  
活かしてまいりたく思います。  
お手数ですが、裏面にご記入の上  
お送りいただければ幸いです。



FAX:06-6686-0002

アンケートはウェブサイトからもご回答いただけます。

<http://www.daiko-group.com/>

【お問い合わせ先】

大幸グループ CSR 事務局

〒559-0025 大阪市住之江区平林南2丁目8番37号  
TEL 06-6686-0001 FAX 06-6686-0002

# 大幸グループ2014CSR報告書 アンケート

大幸グループ CSR事務局あて E-mail:sea-mew@daiko-group.com  
FAX:06-6686-0002

皆様のご意見・ご感想を、今後の活動や報告書作成に生かして参ります。

お手数ですが、下記のアンケートにご回答いただき、FAXなどご返送いただければ幸いです。

Q1. この報告書をどのようにしてお知りになりましたか。

- 当社からの送付    当社ウェブサイト    当社以外のウェブサイト    当社社員から  
セミナー・後援会    その他 [ ]

Q2. 大幸グループ 2014CSR 報告書についての評価をお聞かせください。

- |            |                                 |                             |                                 |
|------------|---------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|
| 1. 全体的な印象  | <input type="checkbox"/> 良い     | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 悪い     |
| 2. わかりやすさ  | <input type="checkbox"/> わかりやすい | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> わかりにくい |
| 3. 内容の充実度  | <input type="checkbox"/> 充実している | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 物足りない  |
| 4. 情報量について | <input type="checkbox"/> 適切     | <input type="checkbox"/> 不足 | <input type="checkbox"/> 多い     |
| 5. デザイン    | <input type="checkbox"/> 良い     | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 悪い     |

\*悪かった点、わかりにくかった点等をお聞かせ下さい。

( )

Q3. この報告書の中で関心をお持ちになった内容をご選択ください (複数選択可)

- |                                     |                                       |                                      |
|-------------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> トップメッセージ   | <input type="checkbox"/> グループ事業拠点展開   | <input type="checkbox"/> グループ概要事業フロー |
| <input type="checkbox"/> グループ概要処理施設 | <input type="checkbox"/> 地域との交流       | <input type="checkbox"/> 育成・訓練       |
| <input type="checkbox"/> 社内環境整備     | <input type="checkbox"/> コミュニケーション    | <input type="checkbox"/> 環境方針        |
| <input type="checkbox"/> 環境マネジメント   | <input type="checkbox"/> 2013年目標とその成果 | <input type="checkbox"/> 環境データ       |
| <input type="checkbox"/> リサイクル活動    | <input type="checkbox"/> 労働安全衛生への取り組み | <input type="checkbox"/> コンプライアンスと教育 |

\*その理由をご記入ください。 ( )

)

Q4. 大幸グループのCSR活動や報告書について、そのほかご意見・ご感想などがあればご記入ください。

[ ]

Q5. あなたのプロフィールについてお聞かせ下さい。

- ・お読みになった立場    お客様・お取引先    企業のCSR・環境ご担当者    当社グループの近隣にお住まいの方  
    行政機関    金融・投資機関    NPO・NGO    研究・教育機    学生  
    報道機関    当社グループ社員・家族    その他[ ]
- ・年代    10代    20代    30代    40代    50代    60代    70代以上
- ・性別    男性    女性

Q6. 次回のCSR報告書の発送を希望されますか。

- はい    いいえ

ご協力ありがとうございました。指し支えなければ下記にもご記入ください。

次回のCSR報告書の発送を希望される方は、お名前とご住所を必ずご記入ください。